

# 丹波市男女共同参画センターへようこそ！

10月22日 丹波ゆめタウン2階に丹波市男女共同参画センターがオープンしました。

## 丹波市男女共同参画センター開設によせて



中里 英樹

丹波市男女共同参画審議会会長  
甲南大学文学部教授

今から9年前、2010年に丹波市の人権啓発誌『じんけん丹波』第5号に「線を引き直すー男女共同参画社会にむけて日々できること」という小文を掲載していただきました。短い文面の中で私が「男女共同参画」に関して最も重要だと考えていることを込めたいと思い、かなり力を入れたことをよく覚えています。「男と女の中の線は、日常生活の中で当然のものとして問い直されることが少なく、非常に動かしづらいものだ」という現状認識や、「一番引き直しづらい男と女の中の線について考えることは、心の中のさまざまな『差別』を見直す最良のトレーニングになるのではないだろうか」というメッセージは、今もさまざまな場所でお伝えしている内容です。

その後、ご縁があって、2016年から「男女共同参画計画策定委員会」の委員長、続いて昨年からは「男女共同参画審議会」の会長として、現在に至るまで、丹波市の自治会長会、社会福祉協議会、商工会、女性団体等さまざまな組織の代表、

あるいは個人として応募された委員の皆さんと対話をする機会をいただいております。こうした丹波市で暮らしておられる方の日々の声によって、地域に根ざしたすばらしい丹波市男女共同参画推進条例が制定されました。

このような対話の中で、地域における女性の活躍の場の拡大に向けて長年努力されてきた女性委員から、女性の声を反映させることの難しさをうかがい、地域ならではの課題を共有することができました。一方で、男女共同参画に関わる委員としての経験から、自分の中の「男女の役割」のあたり前を見直し、家庭の中で家事を分担し、地域の活動においても女性の活躍の場を広げる取り組みを始めた男性委員のお話などには、変化の兆しを感じ、勇気づけられることも多々ありました。このように、地域の課題をそれぞれの立場を超えて共有することが、ハードルの高い「男女の線の引き直し」を推進する力になっていると強く感じます。これまでこうした審議会等の中でおこなわれていた対話が、より多くの市民の皆さんの間に広がるうえで、このたびの男女共同参画センターの設立は大きな弾みになると確信しています。さまざまな方々が、このセンターに集い、対話を重ね、ともに活動し、地域における「男女の線の引き直し」を進めることで、「すべての人が、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会」を作っていられることを切に願っています

『線を引き直すー男女共同参画社会にむけて日々できること』(中里英樹)より抜粋

男女共同参画社会の実現のために個々人が日々の生活の中でできることは、線を引き直してみることだと私は思う。

「女の人は子どもができる、急に仕事に穴を開けたりしてあてにならないよな」と考えたら、男女の違いではなく、自分以外に子育てに責任をもつてくれる人がいるかどうかで線を引き直してみる。

「赤ちゃんの気持ちを理解することでは、やっぱりお父さんよりお母さん」と思ったら、母と父の間ではなく、普段長く一緒にいる人といない人の間に線を引き直す。

そもそも線を引き直すというのは、線をなくして人間をすべて同じにすることではない。人々が実際に引いている線に対して、見て見ぬふりをするということでもない。引かれている線をしつかり見つめたうえで、いろいろな線の引き方を考えてみるのだ。それによって他者のおかれた立場への想像力を養うことができる。

一番引き直しづらい男と女の中の線について考えることは、心の中のさまざまな、「差別」を見直す最良のトレーニングになるのではないだろうか。

『じんけん丹波 No. 5 (丹波市)』  
平成二十二年二月発行

